

心身障害児に対する生体腎移植—島根大学病院で行った1例目の経過報告

ほり 堀	え 江	あき 昭	よし 好 ¹⁾	お 小	やま 山	ち 千	ぐさ 草 ¹⁾	み 三	はら 原	あや 綾 ¹⁾	
かな 金	い 井	り 理	え 恵 ¹⁾	やま 山	ぐち 口	せい 清	じ 次 ¹⁾	たけ 竹	たに 谷	たけし 健 ²⁾	
いの 井	うえ 上	けい 圭	た 太 ³⁾	あり 有	ち 地	なお 直	こ 子 ³⁾	みつ 三	い 井	よう 要 ³⁾	ぞう 造 ³⁾
しい 椎	な 名	ひろ 浩	あき 昭 ³⁾	い 井	がわ 川	みき 幹	お 夫 ³⁾	やま 山	もと 本	まさ 昌	ひろ 弘 ⁴⁾
すぎ 杉	もと 本	とし 利	つぐ 嗣 ⁴⁾								

キーワード : kidney transplantation, handicapped children, mental retardation, quality of life

要 旨

島根大学病院で1例目の心身障害児に対する生体腎移植を行った。脊髄小脳変性症、糖尿病などの基礎疾患があり、重度の精神運動発達遅滞を認めている。膜性腎症による慢性腎不全に対する透析治療が継続困難となったため、母親をドナーとした生体腎移植を行った。術後経過は良好で、移植前よりも患児だけでなくその家族のQOLが改善した。

1980年代には知的障害を持つ子どもに対する腎移植は適応外であったが、その考え方も変化しつつある。腎疾患以外の合併症のコントロールが可能で、患者およびその家族に対する適切なサポート体制があれば、心身障害児に対する腎移植は有意義な治療として位置づけられつつある。

はじめに

慢性腎不全に対する治療として、腎移植は小児領域でも一般的な治療となっている¹⁾。しかし、心身障害をもった児に対する腎移植に関しては様々な意見があり、施設毎に基準が曖昧となっ

ていることが多い。今回、島根大学で第1例目となる心身障害児に対する生体腎移植を行い、患者と家族のQOLについて経過を報告する。

症 例

症例 : 16歳4か月、女兒

家族歴 : 特記事項なし

基礎疾患 : 1歳頃より糖尿病(インスリン治療を要する)、難聴、白内障、脊髄小脳変性症(振戦、

Akiyoshi HORIE et al.

1) 島根大学医学部小児科 2) 同 附属病院輸血部

3) 同 泌尿器科 4) 同 内分泌代謝科

連絡先 : 〒693-8501 出雲市塩冶町89-1